

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200935		
法人名	有限会社 敬仁会		
事業所名	有限会社 敬仁会 グループホーム 万富の郷		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1871-1		
自己評価作成日	平成27年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3372200935-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1
訪問調査日	平成27年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

90歳、今年元気で誕生日を迎えられる郷の皆さんの平均年齢です。ホーム最年長のお姉さんは99歳、昨年より命の瀬戸際を歩かれています。妹たちはずっとお姉さんを見守ってきました。そして今もそうです。昨年より一年間同じメンバーの家族で過ごせたことなんて嬉しいことでしょう。今年目標は少しでも多く皆さんに寄り添えるよう、業務も改善しゆとりの介護で思い出づくりをしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「万富の郷」がもうすぐ11年目を迎えようとしている今日、長年共に暮らし続けたAさんへの万感のこもった空気が漂い続けている。数日前、享年百歳でこのホームを選んで逝かれたAさんは、「ここに居らせてください」の言葉に聞いて職員・家族に感動とすばらしい思い出をプレゼントしてくれた。開設以来、9人程の看取りを経験して、職員は人間の生と死の崇高な境地に立つ事による重みを増し、ケアの有り方への意識の変化も感じられる。「逝かれた方々の教えの賜物」と管理者は感謝している。ほとんど入れ代わる事の無い利用者・職員は、お互いの心が通じ合い、大きな家族の寄り合いになっている。しかし管理者は今の状況に流されないように心を配り、朝のミーティングや会議での情報・意見交換を綿密に実施し、行き届いたケアを実践している。Aさんに惜しくも会えなくて残念だったが、主の居ないそのお部屋で幸せな最期を偲んだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着型サービスの意義を理解し地域との交流を図り、調和して生活している。	このホームは、「何よりも地域に馴染み貢献できる様、つながりを大切にしたい」と願っているし、地域の方々も仲間として受け入れてくれている。日々の目標は「美味しいものを食べて、少しでも楽しく元気に長生きしていただく」で、職員は食事作りに腕をふるっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の生協への加入、地域の移動商店の利用、畑の作物、花の差し入れがある。文化祭への参加。	最も力を入れている地域交流の一つが十回目を迎えた夏祭りで、多くの地域ボランティア・近所の方々の協力を得た。地域の文化祭に作品等を出品して参加したり、冬の餅つき大会での協力、秋祭りや保育園等の子供達との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会合で介護相談にのったり、運営推進会議で認知症の相談の呼びかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状や予定、前回の検討事項への経過報告をし、家族を含め参加者の意見をもらうこと、同時にできる限り利用者も参加して交流を図っている。用紙の改善と話録(S)のコーナーを入れる。	2ヶ月毎に実施している運営推進会議には、町内会長・民生委員・地域包括の職員・利用者・家族等が参加して有意義な会議をしている。ホームの報告・情報交換・アドバイス・意見交換等が見られ、議事録はリビングにも掲示してある。	この会議での情報交換や意見交換で、実際にはより良いケアにつながったり業務改善が見られた例もある。これらの記録や各々の発言が次のステップに役立つ事もあると思うので記録の仕方に工夫が欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員、包括支援センター担当者に現場の実情を知ってもらい協力体制を図っている。情報の提供もいただいている。	運営推進会議には地域包括支援センターの担当者が毎回参加して、介護に必要な資料を提供したり、介護保険に関する事等指導したり質問に応じてくれている。ホーム側としても日頃の状況を良く理解してもらえる様連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、一人一人のその日の気分や状態を把握し自由で安全な生活を支援している。	職員の見守り、気配りそして利用者の居場所設定等の配慮はよく出来ており、身体拘束につながるような状況は無い。居室にも一人ひとりに適した工夫があり、安全でその人に合わせたケアの実践が見られる。玄関も日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアを発見したら対応方法について話し合い、決してしないと確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者が以前いたため、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時事業所の方針をしっかりと理解してもらい退居を含めた対応可能な範囲について時間をとって丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「万富の郷便り」で毎月連絡欄を設けざっくりとばらんに状態を伝え、面会時、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。本人の話したことも報告する。	家族の面会も多く、受診の付き添い等色々な面での協力も多い。面会時や連絡し合った時には、できる限り職員の方から多く質問をする等して、家族の意向を聞くようにしている。「万富の郷便り」では「個人連絡覧」も作っている。	利用者や家族が何げなく呟いたり言葉の端々で気になった言葉を拾い上げてみてはどうだろうか。改まった意見や苦情はなかなか出にくいもだが、職員がその気で耳を傾けていると、意外に見つけられる事もある。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の綿密な申し送りやミーティングと月に一度職員会議を開き意見交換をしている。出来ることはその日より実行している。	職員の移動がほとんど無い事は、利用者にとってはもちろんだが、職員間の意思疎通・情報共有と理解度の面でも効率的で得難い状況と思う。しかし管理者は慣れ合いやマンネリ化を常に気に留め、真摯な姿勢で職員の意見に耳を傾けている。時には「女子会」もして場を変えた話し合いをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入り入居者と過ごしたり個別に職員の業務や悩み事の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加の呼びかけとケアマネ、介護福祉などの資格の修得も務めている。研修内容の報告により、知識を高めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区内に関連の事業所の集まりがあり参加して情報交換や質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で本人が置かれている状況を理解し、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、求めていることを理解しどのような対応ができるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に管理者、ケアマネージャーが本人に会いに行ったり来てもらったりして信頼関係が持てるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者に教えてもらう場面が多く持てるよう声掛けし、お互いが協働しながら穏やかな生活が出来る様配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日ごろの状態をこまめに伝え相談し、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人や習い事のお弟子さんの面会があったり、つながりを継続できる支援をしている。	この地域の利用者が多いという事もあって、近くの方々との色々な出会いがあり、ホームに来てくれる人も居る。利用者が高齢化した現在は、多くの家族が外出支援をしてくれ、「家族だからこそ出来る馴染みの人や場とのつながり」を実践してくれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事のときは、職員も一緒に多くの会話をもち利用者同士が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても行事に招待したり、差し入れがあったり交流は怠っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々かわりの中での会話より本人の意向を見出している。気づきノートを利用し新しいことの発見は赤ペンで記録している。ケアプランへも反映している。	このホームの特長の一つが「ほとんどの人が日記を書く」という支援だろう。入居時書けなかった人も、職員の粘り強い誘いかけで良く書けるようになった人も居る。このホームでは、職員の語りかけも非常に多く、利用者は自分の思いや意向を職員によく伝えている。	試行を始めた「個人別聞きとり」ノートは是非継続して欲しい。多くを拾い上げようと無理をすると続かないので、出来る範囲で良い。こうした「何を拾うか」職員が日頃から気にしてみる事が、気づきの訓練につながると思う
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用前にケアマネージャーの力を借り、生活歴やライフスタイル、価値観を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを把握し、本人への働きかけを含め確認、記録するようにしている。日々寄り添って日記付けも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に日常生活の中で思いや意見を聞き、職員全員で意見交換、カンファレンスを行っている。ホワイトボードの活用。	長年、毎朝続けているホワイトボードを活用してのミーティングが、ケアプラン・モニタリングへの礎となっている。90歳を越えた高齢者がほとんどなので、「楽しい事や張り合いを感じながら穏やかな日常」を大切にしたい支援を目標にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、気づきノート、申し送りノートの作成で、日々の申し送りですべての職員が確認できるようにして計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ通院、送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加することで情報交換、協力関係が強化された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得するかかりつけ医での受診、往診としている。家族への情報提供も怠らないようにしている。	入居時にホームのかかりつけ医に移行した人も居るが、従来そのままの場合は原則として家族が受診支援をしている。また内科以外の歯科や眼科等ではその都度話し合っているが、家族の協力が多	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康管理、状態の変化に応じた支援を行えるようにしている。居ない時は介護職員の記録を基に確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し短期間の治療とスムーズな退院ができる様医療機関と連携を取り、積極的な支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ事業所が対応しうる最大の支援方法方針を話し合い、取り組んでいる。ターミナルケアについても随時意思を確認しながら、医師と連携を取り慎重に対応をしている。	「万富の郷」の方ではこれまでに多くの利用者を看取ってきた。一人ひとり状況が異なるが、職員はそれぞれのケースに全力を尽して対応してきた。本人・家族の感謝の気持はよく解る。今後もその人の状況・周囲の環境等を考え、よく話し合いながら、条件が合えば取り組みたいと言う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生マニュアルを作成し、夜間の連絡方法等色々なケースを想定しながら話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年二回の訓練を入居者と共に行っている。地域の協力体制も運営推進会議で呼びかけている。	年2回の避難訓練は実施しているが、今後近くのコミュニティハウスまで歩いて、または車椅子で避難してみる予定にしている。運営推進会議でも災害対策について話し合っており、スプリンクラーも27年度に設置される予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えて、目立たずさりげなく自己決定しやすい言葉かけに配慮している。	9人の集団生活の中に穏やかに溶け込めない人が居る場合も、職員はよく話し合い、数々の試行を繰り返しながら、より良い方法を手探りしている。その場合、当事者の尊厳やプライバシーが損なわれないように、また、周囲の人の納得も得られるよう、十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を見極めそれを基に本人が選びやすい場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが時間を区切った過ごし方にせず、出来るだけ個性を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元理容師に本人希望の髪型にしてもらったり、更衣、入浴時着替えの服を選んでもらったりして、その人らしさを保てるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の大切な活動の場の一つとし、入居者と一緒にメニュー作り、調理、盛り付け、盆拭き等を行っている。	利用者の皆さんが一番楽しみにしている事は、もちろんこの食事。職員も一番力を入れている事は「皆さんの“美味しい”の笑顔」。今日の昼食の品数やボリュームにびっくりしたが、ほとんどの人が完食なのもびっくり。「いつもの事ですよ」の声で「元気の源」を知った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量のチェックと月々の体重測定を怠らず、本人に合った食事の提供を行っている。また、個別に主治医より高カロリー補助食を出してもらっている人もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は見守り、できない方も一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁量の少ない入居者は紙パンツから布パンツへ、またオシメの種類や当て方も常に工夫して取り組んでいる。	食べる事に職員は全力をあげて頑張っているのと同時に、排泄の支援も個々に綿密に情報共有しながら支援をしている。トイレで自力排泄はもちろんの事「快便の支援はその人の生活全般に関わる」と今朝のミーティングでも重要項目として話し合われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や食事メニューを工夫し、水分補給の徹底を行い、体を動かすことの大切さも伝えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ入浴の順番など配慮し、体調に応じて安全でスムーズな入浴を工夫している。	入浴が大好きな人が多く、職員は喜んでいる。一日おきの入浴が一般的だが、その人、その時の状況で柔軟に対応している。午後の時間にまとまったリハビリや楽しい事をしたい為に、現在は了解を得て午前中に入浴してみている所である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活リズムを把握し整え、日中の活動を促し、場合によっては家族、医師と相談し薬剤の調整に努めている。また午睡も取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量の変更と本人の状態の変化を観察し医師への連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールのモップかけ、米磨ぎ、食事の準備の手伝や野菜のしょうやく、干し柿づくり、縫い物、洗濯畳、生け花など本人の得意分野で発揮してもらえるような場の提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、夏祭り、地区文化祭、紅葉狩りなどの外出の機会を設け楽しんでもらっている。家族との外出も支援している。	花見や紅葉刈り・英国庭園での散歩等、季節を全員で楽しむ外出はなかなか厳しい状況になりつつあるが、少人数や個別での外出や外食・買い物等、出来る限り外の空気に触れるようにしている。家族にお願いして受診等の帰りに一緒に何かを楽しんでもらう事もよくある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談し金銭管理に取り組み、使途に関しての報告も必要に応じて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	見舞いの絵手紙が届いたり、誕生日や敬老の日のプレゼントも届いたり、また、お礼の電話の援助もしている。居室でゆっくり携帯電話で兄弟への近況報告をしている入居者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の季節感や生活感を大切にしているフロアづくりに努め、家庭的な雰囲気を味わってもらえるようにしている。TVも台数を増やし個々の居場所を大切にしている。	リビングの中心に、いつも季節の花々が一杯の大きな机がドーンと納まっており、それを囲む利用者は、ある時は食事・ある時はゲームや塗り絵やパズル・ある時は家事等々、さまざまな活動場として自分の居場所を確保している。その配置については職員の工夫の跡がよく伺われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間はすべてが視野に入りやすいため、ソファコーナーや長椅子でくつろげるよう配慮している。また、パーテーションの有効活用に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や状態に合わせ畳かベットを選んでもらい、その人らしく居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	居室はほとんどの人が寝室として使用している。いろいろな事情によってベットではなく布団にしている人が3人居たり、手元にナースコール代わりとして鈴を付ける等、就寝時に必要な安全対策をしてゆっくり休んでもらえるように色々工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の変化に考慮し、入居者の現在の状態に応じた環境の整備に努めている。		